

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	64人	算数	64人	理科	64人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	66人	算数	66人	理科	66人
------	----	-----	----	-----	----	-----

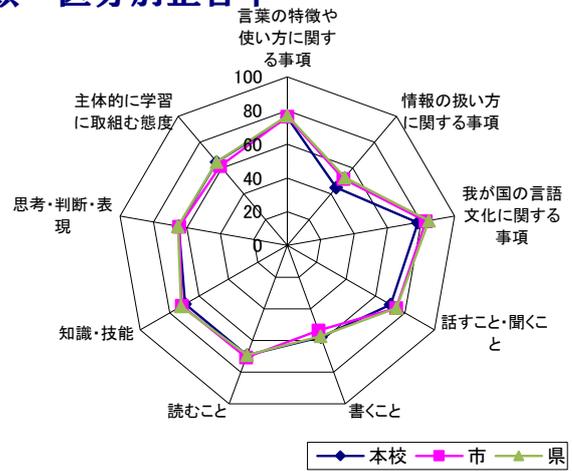
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	75.9	76.4	77.0
	情報の扱い方に関する事項	44.8	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	78.1	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	70.3	74.1	74.2
	書くこと	57.8	53.7	57.2
	読むこと	69.3	70.7	69.2
観点	知識・技能	69.4	71.6	72.3
	思考・判断・表現	64.9	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	64.7	61.6	64.7



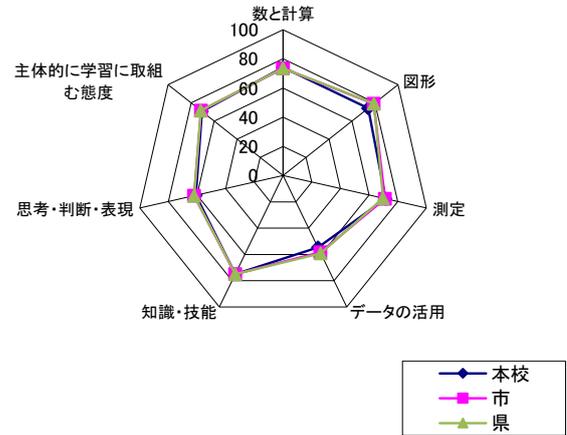
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、市・県の平均を下回っている。</p> <p>○漢字の読み書きについての設問の正答率が高い。</p> <p>○主語と述語についての設問の正答率も高い。</p> <p>○2段構成で文章を書く設問の正答率が高い。</p> <p>●ローマ字で表記されたものを正しく読む設問については正答率が低い。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・ローマ字の読み書きに課題があると思われる。ローマ字による日本語の音の表し方や書き方、ローマ字で書かれた単語の読み方や身の回りの単語のローマ字書きを反復練習し、定着を図りたい。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市・県の平均を下回っている。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら自分の考えを伝える記述式の設問の正答率が低い。また、無回答率が高い。</p>	<p>・書かれている内容を読み取って整理することに課題があると思われる。文章の中から事実や根拠となる部分を見付ける活動を繰り返し設定するようにする。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市・県の平均を下回っている。</p> <p>●漢字のへんとつくりについて問う設問の正答率が低い。</p>	<p>・新出漢字を学習する際、部首やつくりに触れるようにする。また、漢字辞典を引いて部首や成り立ちなどを調べる活動を多く取り入れるようにする。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市・県の平均を下回っている。</p> <p>○話し手が伝えたいことを捉える設問の正答率が高い。</p> <p>●分かりやすくするための話し手の工夫を捉えることに関する設問の正答率は低い。</p>	<p>・話の中心を考えながら聞くだけでなく話し方の工夫について考える機会を設ける。そして、それを実践する場を設定し、友達の話し方の工夫を考えながら聞く活動を取り入れる。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市・県の平均を上回っている。</p> <p>○指定された文字数で書くことや、2段落構成で書くことなど、指示に合わせて解答する設問の正答率が高い。</p> <p>●目的を意識し、集めた材料を比較したり、分類したり、情報と情報との関係を理解し、関係を明確にして書く設問の正答率が低い。</p>	<p>・メモを基にして文章を作成することに課題があると思われる。文章を書く話型や例を提示して同じように書く活動や、新聞やリーフレットなどを作る実践的活動を取り入れる。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市・県の平均を下回っている。</p> <p>○物語文では前後の文章の構成を捉え、内容を把握する設問や、場面の様子について叙述を基に捉える設問の正答率が高い。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約する設問の正答率が低い。</p>	<p>・説明文の場合、各段落の内容や段落と段落の関連を考えたり、内容を要約する活動を継続していきたい。</p>

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.2	73.5	73.6
	図形	74.0	79.0	79.1
	測定	71.6	71.1	69.8
	データの活用	54.7	58.4	59.2
観点	知識・技能	75.0	75.0	75.0
	思考・判断・表現	60.9	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	70.5	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

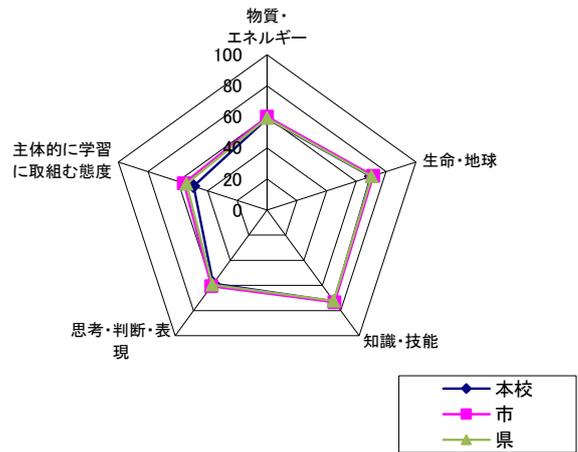
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市・県の平均をやや上回っている。 ○大きな数や小数のしくみの理解を基に、相対的な大きさを考える設問の正答率が高い。 ● 35×14 の工夫した計算の仕方説明する設問の正答率が低い。	・計算はできるが、工夫した計算の仕方の説明に課題があると考えられる。説明の仕方のパターンを身に付けられるように穴埋め問題に繰り返し取り組んだり、授業でホワイトボードを活用して説明する機会を増やしたりするなど多くの経験を積むことができるようにする。工夫して計算するよさを考えさせたり、類似の問題を多く解いたりすることで、工夫した計算への苦手意識を軽減させたい。
図形	平均正答率は、市・県の平均を上回っている。 ○コンパスと定規を使って正三角形を正確に描く設問の正答率が高い。 ●円の半径が分かっている円を選んだり、球の半径から球が1つ入った箱の辺の長さを求める設問の正答率が低い。	・円や球の直径と半径の関係を押さえ、練習問題に取り組む。また、実物を見せたり、必要に応じて長さを測定する活動を通して、問題から図をイメージできるようにする。
測定	平均正答率は、市・県の平均を上回っている。 ○道のりを求める設問の正答率が高い。基礎的事項が定着していると考えられる。 ●はかりの目盛りを読み取って果物の重さを求める設問の正答率が低い。	・誤答を見るとはかりの目盛りを読むことは出来ていると考えられる。設問をよく読み、図に表して状況を把握したり、計算式を立てたりしながら解答できるように練習問題に取り組む。
データの活用	平均正答率は、市・県の平均を下回っている。 ●2種類の棒グラフから条件に合わない文章を読み取ったり、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを正しく読み取ったりする設問の正答率が低い。	・4分の1の誤答から設問をよく読んでいないことや、片方のグラフのみで解答していることなどが予想される。普段から理科や社会などの他教科でも複数のグラフから気付いたことを説明したり、ペアやグループで話し合ったりする活動を多く取り入れ、基礎・基本の定着を図っていく。

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	58.8	60.2	59.2
	生命・地球	69.8	71.3	70.3
観点	知識・技能	72.7	73.4	72.3
	思考・判断・表現	58.5	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	49.4	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市・県の平均をやや下回っている。</p> <p>○電気の通り道では、電気を通すものと通さないものを理解して区別する設問の正答率が高い。実際に実験して結果を考察する活動を行った成果だと考えられる。</p> <p>○磁石の性質の設問では、磁石の極を確かめる方法としてふさわしいものを選ぶことができおり、正答率が高い。確かめる方法を考察してから、実験を行った成果だと考えられる。</p> <p>●音の性質の設問では、大きい音と小さい音の震え方の違いについての正答率が低い。</p> <p>●電気の通り道では、回路を理解して電球の明かりのつき方を推測する設問の正答率が低い。</p>	<p>・音の性質については、音の鳴るおもちゃ作りを通して実験する場を設定し、理解を促すようにする。</p> <p>・電気を通すものと通さないものの理解はできているが、電気の通り道の回路の理解に課題があると考えられる。日常生活で使う道具などについても実験する機会を設定して、普段から電気の通り道を考えることを増やして、回路についての理解を深める。</p> <p>・実験を行った際は実験結果を考察することにより、内容の定着を図る。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市・県の平均をやや下回っている。</p> <p>○昆虫のからだのつくりについての設問の正答率が高い。多くの昆虫について観察し、体の仕組みについて記録をとった成果だと考えられる。</p> <p>○日なたと日かげの地面の温度のグラフを読み取る設問の正答率が高い。観察記録を取る際に、温度変化と時刻を関連付けてまとめてきた成果だと考えられる。</p> <p>●身近なげんのかんさつでは、虫眼鏡の正しい使い方についての設問の正答率が低い。</p> <p>●モンシロチョウがキャベツの葉に卵を産む理由を説明する設問の正答率が低い。</p> <p>●モンシロチョウのさなぎの様子についての設問の正答率が低い。</p>	<p>・身近な自然の観察については、実際に虫眼鏡を使って生き物を観察する機会を増やし、適切な使い方を身に付けられるように指導する。</p> <p>・文章をよく読んで設問内容を把握する習慣を身に付けられるように指導する。</p> <p>・昆虫の育ち方については、モンシロチョウの育ち方の理解に課題があると考えられる。モンシロチョウの一生の観察記録をつける機会を増やしたり、図鑑やインターネットを活用して、モンシロチョウや昆虫の成長の様子を調べて学習することを増やしたりして理解を深めるようにする。</p>

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」児童が多い。多様なプリントを用意したり、模範となるノートを掲示したりすることで家庭学習を促すようにしてきた成果が表れている。今後はさらに予習復習等を効果的に取り入れられるようにしていきたい。

○「毎日、朝食を食べている」といった基本的な生活習慣に問題はない。保護者とも連携し、今後も続けられるようにしていくとともに、早寝早起きにも結び付くようにしていきたい。

○「自分にはよいところがあると思う」の質問に対する肯定割合が高い。お互いのよさを認め合う活動やを実施したり、教師が意図的に褒めたりすることが、児童の自己肯定感に結び付いていると考えられる。

●「家で、授業の復習をしている」児童や「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」児童が少ない。復習の効果や具体的な方法を児童に伝え、家で自主学習として取り組めるようにしていく。

●本やインターネットを活用して学習に関する情報を得ている児童が少ない。学校司書と連携し、単元の学習内容に合った図書資料を紹介したり、子供たち自身でそれらを探せるような声掛けをしたりしていく。パソコンの活用については、操作に慣れていない児童も多い。今後は、一人一台端末を活用した学習も積極的に取り入れ、検索の仕方から段階を踏んで指導をしていく。

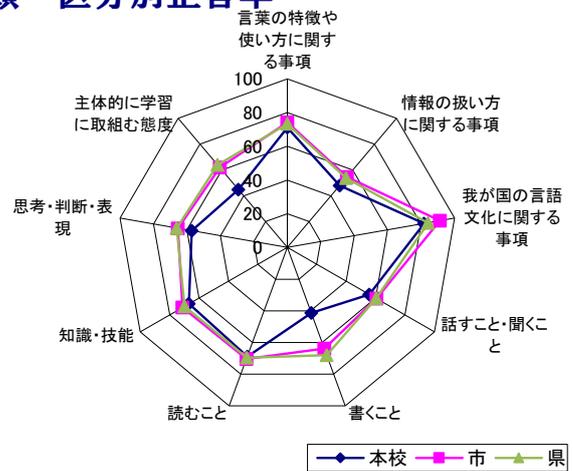
●「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」と回答した児童が少ない。自分の考えを説明したりペアや少人数で話し合ったりする活動を積極的に授業に取り入れ、自分の意見を話すことに自信をもたせるようにしていきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」と考えている児童が多い。授業ごとの最後の振り返りを自分の言葉で書いたり、意欲が出るようなテーマを設けた作文を取り入れたりすることで、文章で表現することに自信をもたせるとともに、表現する力を付けるようにしていく。

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	71.1	74.2	73.3
	情報の扱いに関する事項	48.0	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	81.8	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	55.8	60.6	60.4
	書くこと	41.3	63.8	68.0
	読むこと	68.9	70.4	69.6
観点	知識・技能	66.9	71.3	69.9
	思考・判断・表現	57.2	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	44.8	61.9	64.0



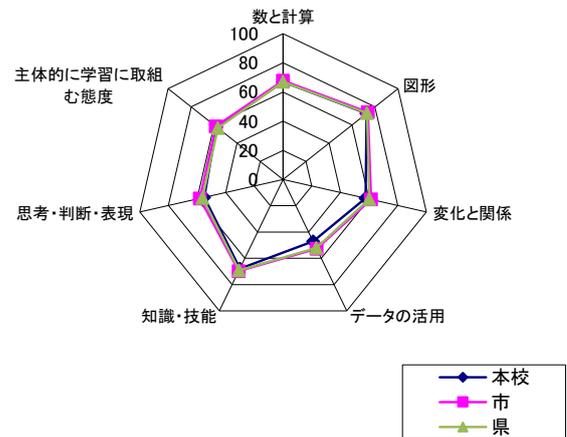
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、市・県の平均を下回っている。</p> <p>○漢字の読みについては習熟が図られている。</p> <p>○連用修飾語についての設問の正答率が高い。</p> <p>●連体修飾語についての設問の正答率が低い。</p> <p>●アンケート結果を基に、自分の考えを段落の役割を踏まえながら、2段構成で文章を書く設問の正答率が低い。また、無解答率が高い。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>今後の指導の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の意味を踏まえ、文章の中でどんな働きをしているのか理解することに課題がある。語彙数を増やし、文の成分について理解を深めるためのミニテスト等を取り入れていきたい。 ・指示に沿って自分の考えを記述することに大きな課題が見られる。何を問われているか正確に把握した上でまとめられるよう、理解しやすい内容と量で反復的に練習を重ねていきたい。
情報の扱いに関する事項	<p>平均正答率は、市・県の平均を下回っている。</p> <p>●漢字辞典の使い方についての設問の正答率が低い。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら自分の考えを伝える記述式の設問の正答率が低い。また、無解答率が高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に漢字辞典を引くことができるよう、教室の環境を整えたり、検索方法を復習しながら新出漢字を調べたりする活動を取り入れていきたい。 ・書かれている内容を読み取って整理したり、根拠に基づいた意見を文章に表したりすることに課題があると思われる。短い文章を用いて、事実や根拠となる部分を見付ける活動を多く取り入れ、定着を図りたい。
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市・県の平均を下回っている。</p> <p>●ことわざの意味を理解し、文章中で正しく使う設問の正答率が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童がことわざに興味をもつことができるよう、ことわざをテーマにした本をブックトーク等で紹介し、手にする機会を設けていく。また、ことわざを取り入れて、日記や短作文を書く課題を取り入れていく。
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市・県の平均を下回っている。</p> <p>○話し手が伝えたいことを理解したり、分かりやすくするための話し手の工夫を捉えることに関する正答率は高い。聞くポイントを押さえて話を聞くという取組の成果だと考えられる。</p> <p>●話し合いで司会の役割を果たし、お互いの意見の相違点に着目して考えをまとめる設問の正答率が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動を行う際に、相手と自分の意見の相違点を意識して考えさせる活動が必要であると考えられる。また、それを踏まえた上で自分の意見を相手に伝える練習を授業の中で多く設定していきたい。
書くこと	<p>平均正答率は、市・県の平均を下回っている。</p> <p>●指定された長さで書くことや、2段落構成で書くことなど、設問の指示と異なる解答をしてしまう割合が高い。さらに無解答率も各設問で高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「文章を書く」ことに抵抗を感じる児童が多いと考えられる。書くことへの抵抗をなくすために、テーマを与えて短文に取り組む時間を多く設定するなどの活動を行ってきたい。 ・話し合い活動で理由を交えて自分の意見を文章にまとめるなど、自分の考えを文章化する取り組みを多く設定していきたい。
読むこと	<p>平均正答率は、市・県の平均を上回っている。</p> <p>○説明文では前後の文章の構成を捉え、内容を把握することが出来ている。授業の中で文章の関連を考えさせる取り組みの成果だと考えられる。</p> <p>●物語の中で場面の移り変わりと結び付け、人物の心情を考える設問の正答率が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文の場合、各段落の内容を踏まえ、段落と段落の関連を考えていくなど、筆者の意見がどのように伝えられているのか細かく考える活動を継続していきたい。 ・物語の場合は、場面ごとの人物の心情を細かく考えさせ、場面の移り変わりと人物の心情を関連させて考える時間を多く設定したい。

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.0	67.8	67.0
	図形	72.7	73.9	73.1
	変化と関係	57.6	61.4	60.2
	データの活用	47.0	52.7	52.1
観点	知識・技能	67.9	69.7	69.2
	思考・判断・表現	55.0	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	58.0	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

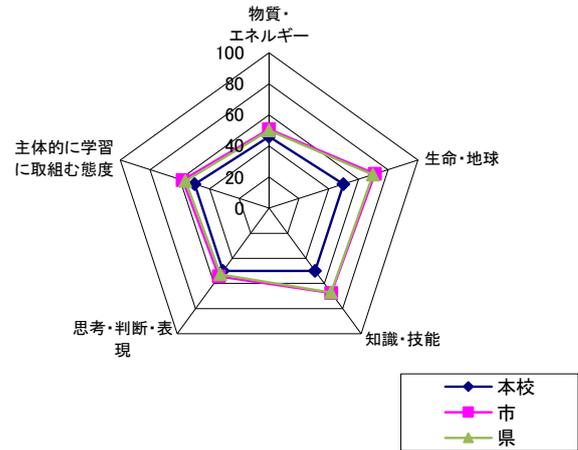
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県の平均と同じである。 ○整数、仮分数、帯分数、真分数の大小を比較する設問の正答率が高い。 ●四捨五入して十の位までの概数に対応する数の範囲を求める設問の正答率が低い。	・四捨五入して概数にしたときの範囲を約半数の児童が○以上○以下と解答しているため、朝の学習等で再確認をし、宿題などで復習問題に取り組ませたい。
図形	平均正答率は、県の平均をやや下回っている。 ○長方形の面積を求めたり、複合図形の面積の求め方や図を表した式を選んだりする設問の正答率が高い。 ●身近にあるもの(1000円札)のおよその面積を求める設問の正答率が低い。	・面積の公式を理解し定着しているため、身近なものの長さを実際に測定し、面積を求める活動を増やしなが、およその長さや面積をイメージできるようにしていく。
変化と関係	平均正答率は、県の平均を下回っている。 ○伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める設問の正答率が高い。 ●一方、伴って変わる2つの数量の関係の式を立てる設問の正答率が低い。	・伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める問題は解けるが、式を立てられないことが課題と考えられる。数字を当てはめる計算はできていると考えられるので、□を使った式を立ててから値を求める問題に取り組み定着を図る。
データの活用	平均正答率は、県の平均を下回っている。 ○折れ線グラフや二次元表を読み取る設問の正答率が比較的高い。 ●2つの折れ線グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する設問の正答率が低い。	・2つの折れ線グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する力を付けるため、算数だけでなく他教科においても、複数の折れ線グラフから気付いたことを説明する機会を多く設定するようにしていく。

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	46.0	50.8	50.0
	生命・地球	50.0	71.1	69.8
観点	知識・技能	50.0	67.6	67.2
	思考・判断・表現	50.0	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	50.0	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市・県の平均正答率を下回っている。</p> <p>○乾電池の向きによって電流の向きが変わることを理解し、電流の向きと検流計の針の振れ方の関係を問う設問の正答率が高い。</p> <p>○空気・水・金属の順に、温度による体積変化が大きいことへの理解を確認する設問の正答率が高い。実際に金属球を温める実験をしたことが、理解の定着に貢献したと考えられる。</p> <p>●提示されている予想が正しいかを推測する設問や、圧縮した水の体積についての応用問題の正答率が低い。</p> <p>●物のあたため方についての理解を確認する設問の正答率が低い。クーラーは電車の天井にあり、ヒーターは座席の下にある理由を考えさせる設問の正答率が低く、約3割の児童が無回答である。</p>	<p>・予想、実験、結果、考察の流れを定着させたい。また、授業の中で、身近な事象と関連付けさせるなど、学習したことを実感的に落とし込む場面を十分に設定する。</p> <p>・暖かい空気が上に動くこと、ヒーターが足元に取り付けられていることが噛み合っていないと考えられる。そこで、実験結果から考えられることを、自分の言葉で説明する場面を普段から十分に設定することで、記述問題への苦手意識を軽減させたい。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市・県の平均正答率を下回っている。</p> <p>○気温の変化のグラフから晴れの日を判断し、その理由を説明する設問の正答率が高い。気温計の学習の後に、学級で気温を日常的に読む活動を取り入れた成果が表れている。</p> <p>○星座は時間経過により、位置は変わるが並び方は変わらない事の確認する設問の正答率が高い。</p> <p>●方位磁針の使い方を問う設問の正答率が低い。</p> <p>●学習したことがある生き物については正答率が高いが、類似性のある別の生き物に関する設問は正答率が下がる。</p>	<p>・用具を用いた実験の後には、日常的にその用具を使う場面を設定するなどして定着を図るようにしていく。</p> <p>・一つの生き物や植物について学習した際には、共通点を見付けるなどの視点を取り入れ、理解を促していきたい。</p>

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」と回答した児童の割合が7割を超えている。教室内に自主学習のノートを掲示するコーナーを作ったり、やり方を具体的に示したりして意欲付けを図ってきた成果が表れている。

○「毎日の生活がじゅう実している」と回答した児童が多い。友達関係がよりよくなるような取り組みを実施したり、高学年としての役割を得て意欲的に生活をしようと思いを高めたりした成果である。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である」と回答した児童が多い。児童のどんな発言にも価値を見出し学級全体の学びに生かそうと意識しながら学級経営に取り組んできた成果である。

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」と回答した児童が多い。児童との信頼関係構築のため、一人一人の実態に応じて丁寧に支援を継続してきた成果である。

●「家で、テストで間違えた問題について勉強している」と回答した児童が少ない。個別に目標をもたせて再テストを実施するようにするなど、返却されたテストを見直すための理由付けをして改善を図りたい。

●「グループでの話し合いに自分から進んで参加している」と回答した児童が少ない。一方で、話し合い活動の機会が多いと捉えているため、話し合う内容を簡潔にしたり、自分の考えをもつ時間を十分に確保したりするなどの手立てを講じ、一人一人の児童が積極的に話し合いに参加できるようにしていきたい。

●「授業の最後に、学習したことをふりかえる活動をよく行っている」と回答した児童が少ない。児童が自らの学習を振り返り、これからの学びに生かせるようにするために、振り返りの視点を示し、どの教科でも必ず振り返りの時間を確保するようにしていきたい。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」と回答した児童が少ない。児童の自己肯定感を高めるため、児童一人一人が活躍できる場面を設定したり、自分のよさや成長を実感できるような活動を取り入れたい。

●携帯電話やスマートフォンを持っている児童が多く、テレビを観たりゲームをしたりする時間が長い児童も多い。メディアとの付き合い方、メリットやデメリットを丁寧に説明し、児童自らが判断できるようにしていきたい。また、外部講師の講話を活用して児童に必要な情報を提供するようにしていきたい。

宇都宮市立雀宮南小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるまとめ・振り返りの充実	毎時間の授業でめあて・まとめ・ふりかえりをしっかり行うようにしている。	4年生では、「授業であつかうノートには学習の目標とまとめを書いている」の質問では正答率が、県・市より上回っている。
少人数指導、習熟度別指導	少人数指導、習熟度別指導の他に、一人一台端末も併用して学習定着度の把握し、個に応じた学習を進められるようにしている。	「授業の中で、めあてが示されてる」に対する肯定割合が県の平均を上回っている。算数では多くの領域で市の平均に近い平均正答率であった。
個別学習の充実	一人一台端末や反復学習などを通して、個に応じた漢字・計算など基礎基本の定着を図る。	言葉の使い方や基本的な計算問題について定着してきている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、前後の文章の構成を捉え、内容の把握、計算の仕方の説明など思考・判断・表現に関わる設問の中で、県平均よりも5ポイント以上低いものがいくつかあった。	自分の考えをもち、対話を通して課題を解決する場の設定	ペアやグループなど多様な学習形態を設定し、自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりしながら考えを深められるようにする。
「家で、テストで間違えた問題について学習している」と答えた児童が少ない。	家庭学習の充実	自主学習の習慣化を図るために内容の提示をしたり、参考になりそうな方法を友達同士で共有できるようにしたりする。
「自分はクラスの人の役に立っていると思う」と答えた児童が少ない。	自己肯定感を高めたり、自己の成長を感じられる取り組みの充実	行事等の振り返りカードを活用して自他のよさを感じられるようにする。